

【水害時の避難学ぶ 自治体危機管理学会らシンポ 情報提供体制を】

# 水害時の避難学ぶ

自治体危機管理学会らシンポ 情報提供体制を

日本自治体危機管理学会（中邨章会長）が主催、オリエンタルコンサルタントの協力によるシンポジウム「水害時の避難のあり方」が6月30日、東京都新宿区の新宿NSビルで開かれた。写真。自治体の防災担当者ら約200人が参加し、基調講演やパネル討論を通じて、災害発生に備え、確実な安全確保のための

情報提供体制の構築、広域避難時の体制構築のあり方を探った。

基調講演は、1999年から2003年まで東京都副知事を務めた青山侑明大公共政策大学院教授が講話した。青山教授は日本の災害対策基本法が「避難第一主義」と「市町村中心主義」を打ち出していることを「非常に良くてできた制度」と評価。同基本法で地域防災計画の策定が定められていることについて「発生する災害は地域によって異なる」「災害は往々にして想定外」「一方で応用がきき、経

験が生きる」と理由を説明した。また、過去の風水害を踏まえながら、「災害は複合的に発生する。特に東京は水防工事が必要だ」と対策の必要性を強調した。

この後、パネル討論が行われ、パネリストが災害事例を紹介するとともに提言した。

